

発掘された遺構の再堆積状況

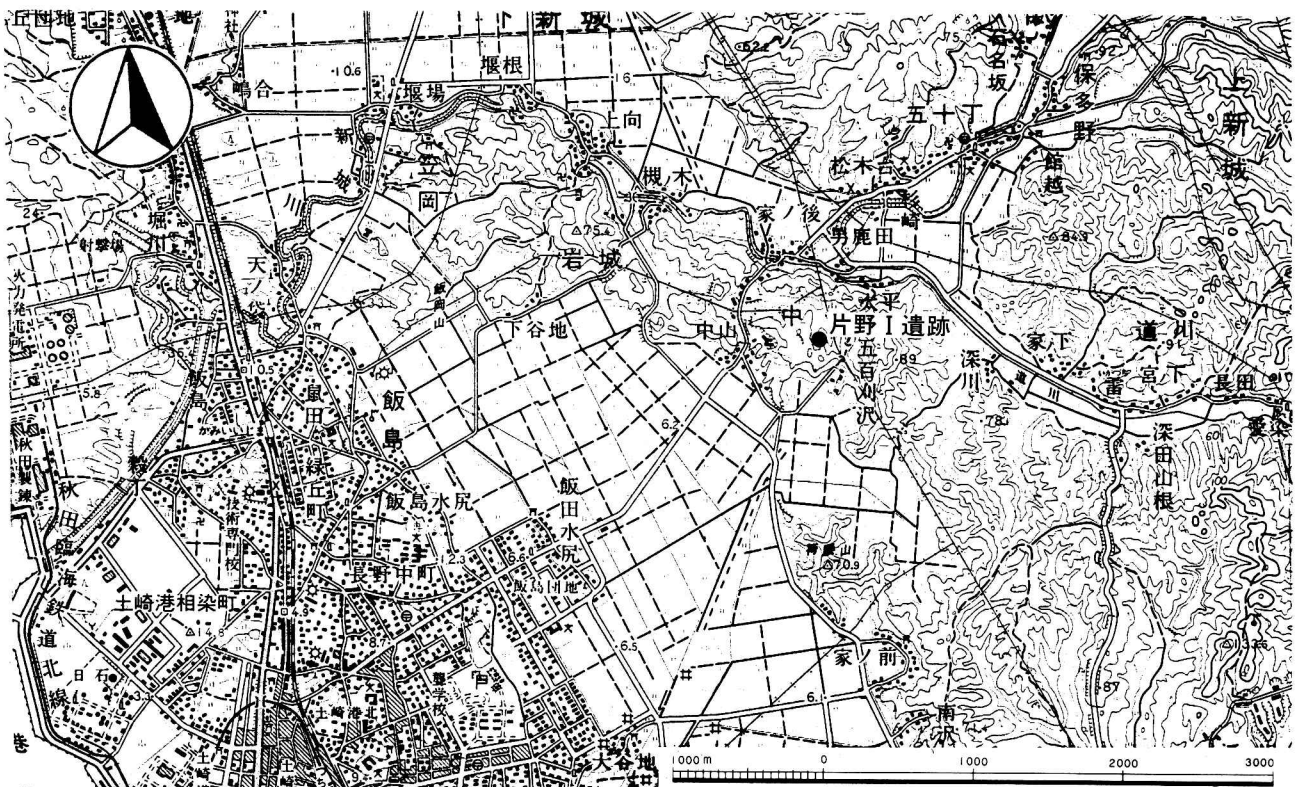
伊 藤 攻

1 はじめに

これまでいくつかの発掘調査を担当していながら、検出した遺構の埋土堆積状況について、それが人為的なものか自然に堆積したものか迷うことがあった。こうした中で平成5・6年に、秋田外環状道路建設事業に伴う片野Ⅰ遺跡の調査を担当した。そこで、過年度に調査が終了した地区で、再度自然に埋まりきった状態の陥し穴遺構や土坑の堆積状況を調査する機会を得ることができた。

当遺跡は秋田市上新城中字片野に所在し、標高45mほどの丘陵地先端部に立地している。発掘調査は平成4年から6年までの3カ年に渡って実施され、その発掘調査面積は28,200㎡である。検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑50基、陥し穴遺構46基、平安時代の竪穴住居跡2軒等である。遺構の配置は、主に丘陵地の平坦部や緩斜面にまとまっている。

今回は、雨水などの影響を比較的受けにくい丘陵地平坦部に位置し、発掘調査が終了して1～2年経過した陥し穴遺構3基、土坑4基の計7遺構を再調査の対象とした。しかし、遺構は地山がむき出しの状態にあり、遺構構築時の地表とは条件が異なることは当然考慮しなければならない。なお、土層図と共に平面形の変化も図化したかったが、遺構の再調査は平成6年の発掘も終わりに近づいた10月の末頃となったため、時間的制約から困難であった。以下には、遺構の再堆積状況を観察した結果について記述し、筆者なりの考察をまとめた。



第1図 遺跡の位置

2 遺構の再堆積状況

陥し穴遺構にはT1～T3、土坑にはD1～D4までの符号を付けた。[]内は報告書の遺構番号である。

T1 [第3号陥し穴遺構(SKT03)] -図4の1・写真1の1-

堆積土上面幅-65cm、底部幅-10cm、深さ90cm

最下層(16層)はシルト質の暗褐色土であり、小さい黄褐色土の塊が僅かに混入している。15層はベースが粒子状の黄褐色土でそれにシルト質の暗褐色土が満遍なく混入している。14層はベースがシルト質の暗褐色土でそれに粒子状の黄褐色土が少量混入している。13・12・11層の各層は指頭大かそれ以下の黄褐色土の塊状の層であり、ぼろぼろしている。10～8層までは、シルト質の暗褐色土に粒子状の黄褐色土が混入しながらレンズ状に互層状態で堆積している。10・9層には塊状の黄褐色土が僅かに混入している。次に8層上面両端隅の6・7層を粒子状の黄褐色土が埋めていて、側壁面の近くでは塊状が多くなる。中央部の5～1層まではシルト質の暗褐色土がレンズ状に堆積している。

T2 [第4号陥し穴遺構(SKT04)] -図4の2・写真1の2-

堆積土上面幅-65cm、底部幅-8cm、深さ-80cm

最下層(10層)はシルト質の暗褐色土であり、粒子状の黄褐色土が少量混入している。9～4層まではベースがぼろぼろした黄褐色土の層で、9・8層は粒子状の黄褐色土の中に少し塊状の黄褐色土が混入している。3～1層まではシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入しながらレンズ状に互層状態で堆積している。

T3 [第5号陥し穴遺構(SKT05)] -図4の3・写真1の3-

堆積土上面幅-70cm、底部幅-10cm、深さ-70cm

最下層(11層)はベースがシルト質の暗褐色土であり、粒子状の黄褐色土が少量混入している。10・8・7・6層は指頭大以下の黄褐色土でぼろぼろしている。9・5・4層にはシルト質の暗褐色土に粒子状の黄褐色土が半分弱混入している。3～1層はシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入しながらレンズ状に互層状態で堆積している。

D1 [第3号土坑(SK03)] -図4の4・写真1の4-

堆積土上面幅-126cm、底部幅-115cm、深さ-45cm

最下層(20層)はシルト質の暗褐色土である。19～17層までは粒子状の黄褐色土でぼろぼろしている。16～11層まではシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入しながらレンズ状に互層状態で堆積している。10層は落葉の堆積層である。9～7層までは粒子状の黄褐色土でぼろぼろしている。6～1層まではシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入しながらレンズ状に堆積している。

D2 [第15号土坑(SK16)] -図4の5-

堆積土上面幅-95cm、底部幅-75cm、深さ-45cm

最下層(11層)はシルト質の暗褐色土である。10～8層まではシルト質の暗褐色土と、粒子状の黄褐色土が半々で混じり合った層である。7～1層まではシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入しながらレンズ状に互層状態で堆積している。

D3 [第16・17号土坑(SK15・SK19)] -図4の6・写真1の5-

堆積土上面幅-210cm、底部幅-190cm、深さ-45cm

最下層(17層)はシルト質の暗褐色土である。16～14層・12～10層までは指頭大以下の黄褐色土でぼろぼろしている。13層はシルト質の暗褐色土である。9～1層まではシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入

しながらレンズ状に互層状態で堆積している。

D 4 [第19号土坑(S K 20)] - 図4の7・写真1の6 -

堆積土上面幅-220cm、底部幅-180cm、深さ-50cm

最下層(20層)はシルト質の暗褐色土である。19~17層までは指頭大以下の黄褐色土でぼろぼろしている。15・14層は粒子状の黄褐色土にシルト質の暗褐色土が数層の薄い筋となって堆積層に対して平行に混入している。13~1層まではシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混入しながらレンズ状に互層状態で堆積している。

3 まとめ

遺構の周囲は、発掘調査完了後の地肌をむき出したままの状態である。風が吹けば土煙が舞い、雨が降れば地肌が削られるといった状態であった。特に、沢状の窪地にある遺構は、雨が降る度に雨水が流入して土砂を運び、短期間に埋まりきった。

T 1・T 2とD 1とした遺構は2年で、D 2~D 4は1年かかって再調査時の状況まで埋まっていた。これらの遺構は、窪地にある遺構より埋まり方が緩慢である。その自然堆積状況について、陥し穴遺構と土坑を区別して観察してみた。各陥し穴遺構の最下層には、共通してシルト質の暗褐色土に少量の粒子状の黄褐色土が入っている。これは風に飛ばされやすく、雨に流されやすい細かい土である。

陥し穴遺構T 1は、最下層の次にベースが粒子状の黄褐色土の層、シルト質の暗褐色土の層と続き、ここまでは、側壁面が安定していたと考えられる。遺構の中位を埋めているぼろぼろした黄褐色土は、その状況から側壁面の崩落土と考えられる。7・6層も、その状況から側壁面の崩落土と考えられ、7~1層の部分は側壁面の崩落土が隅を埋め次に中央部が埋まる。T 2の9~4層までは、その状況から側壁面の崩落土と考えられる。ただし、7層はシルト質の暗褐色土が混入していることから、他の層よりは崩落が緩慢だったと考えられる。T 3の10・8~6層までは、その状況から側壁面の崩落土と考えられる。9・5・4層は、シルト質の暗褐色土の混入割合から緩慢な崩落が考えられる。

陥し穴遺構の場合、下位のベースとして細かくて軽いシルト質の暗褐色土が堆積し、中位に側壁面の崩落土と考えられる黄褐色土が堆積する。そして、上位にシルト質の暗褐色土に少量の粒子状の黄褐色土が混入して、レンズ状態に堆積するといった図式が考えられる。

土坑においても、最下層には、共通してシルト質の暗褐色土が堆積している。

土坑D 1は、19~17層までと9~7層までは、その状況から側壁面の崩落土と考えられる。^(註1)10層は、落葉が薄く堆積した層であり、本層より下層は平成4年秋頃から翌年の晩秋までの堆積層で、上層はさらに越冬して平成6年の秋に再調査されるまでの堆積層である。また、10層の上下層ともほぼ同様の堆積をしている。つまり、底面の隅を側壁面の崩落土が埋め、中央部に少量の粒子状の黄褐色土を混入したシルト質の暗褐色土がレンズ状に堆積している。D 2は、地山が粘土質でしっかりしているために、側壁面の崩落が起こりにくく、崩落土だけの層を形成することはない。10~8層までは、シルト質の暗褐色土と粒子状の黄褐色土が半々ぐらい混じり合った層であるものの、他はシルト質の暗褐色土が粒子状の黄褐色土を少量含んでレンズ状に堆積している。D 3は16~14層までと12~10層までは、その状況から側壁面の崩落土と考えられる。13層はシルト質の暗褐色土であることから、本層が堆積する僅かな間側壁面の崩落がなく、その後に急な崩落が起こったと考えられる。D 4の19~17層までは、その状態から側壁面の崩落土と考えられる。15・14層は

ベースの黄褐色土の層に、暗褐色土が筋状に混入していることから、側壁面の崩落が断続的に起こったものと考えられる。

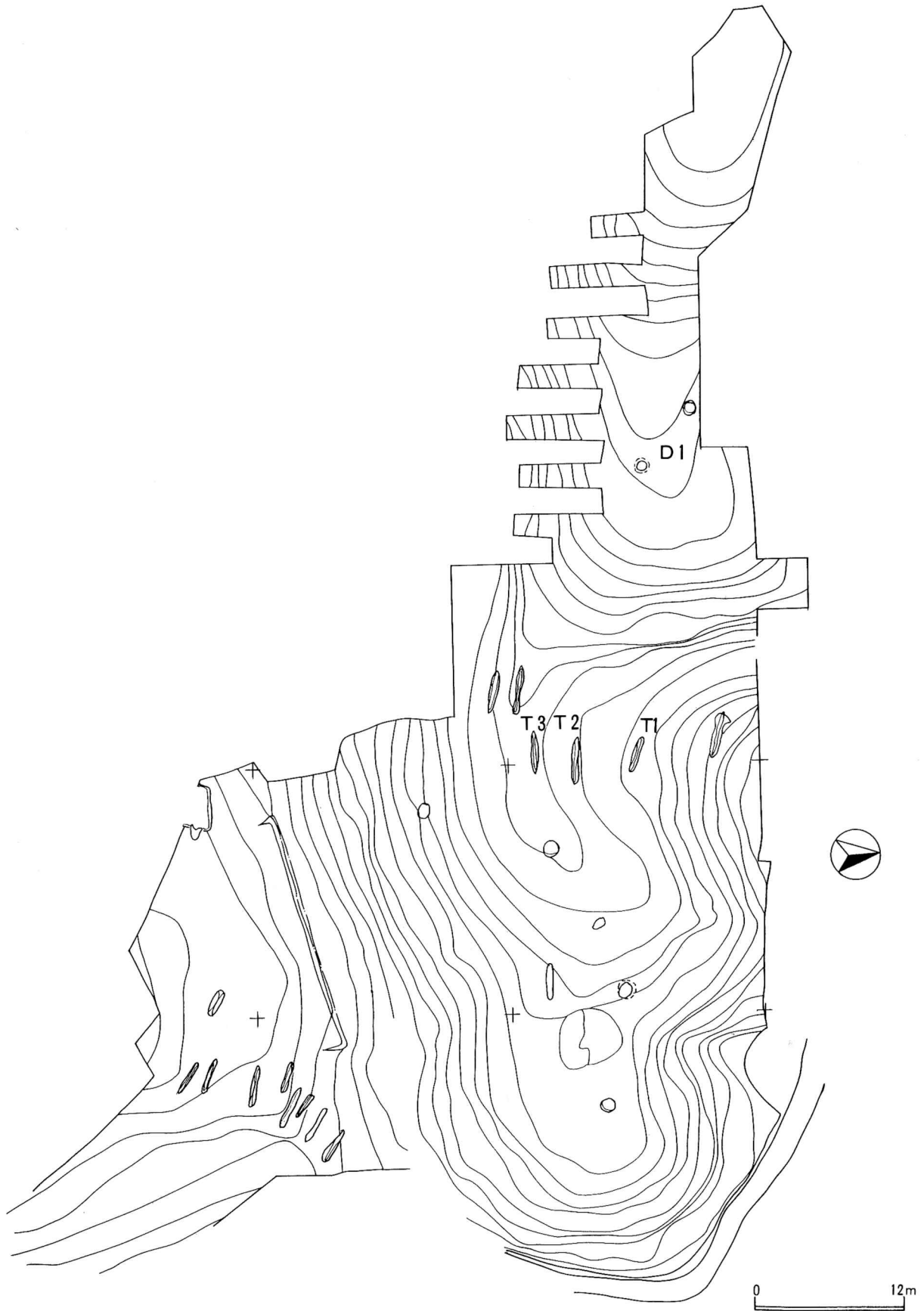
土坑の場合、最初にシルト質の暗褐色土が堆積する。次に側壁面の崩落である黄褐色土が底面の隅を埋めている。そして、中の空間にシルト質の暗褐色土に少量の黄褐色土が混じった層が、レンズ状に堆積しているといった図式が考えられる。

最後に、拙稿を出すに当たり、庄内昭男氏、高橋忠彦氏の御助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

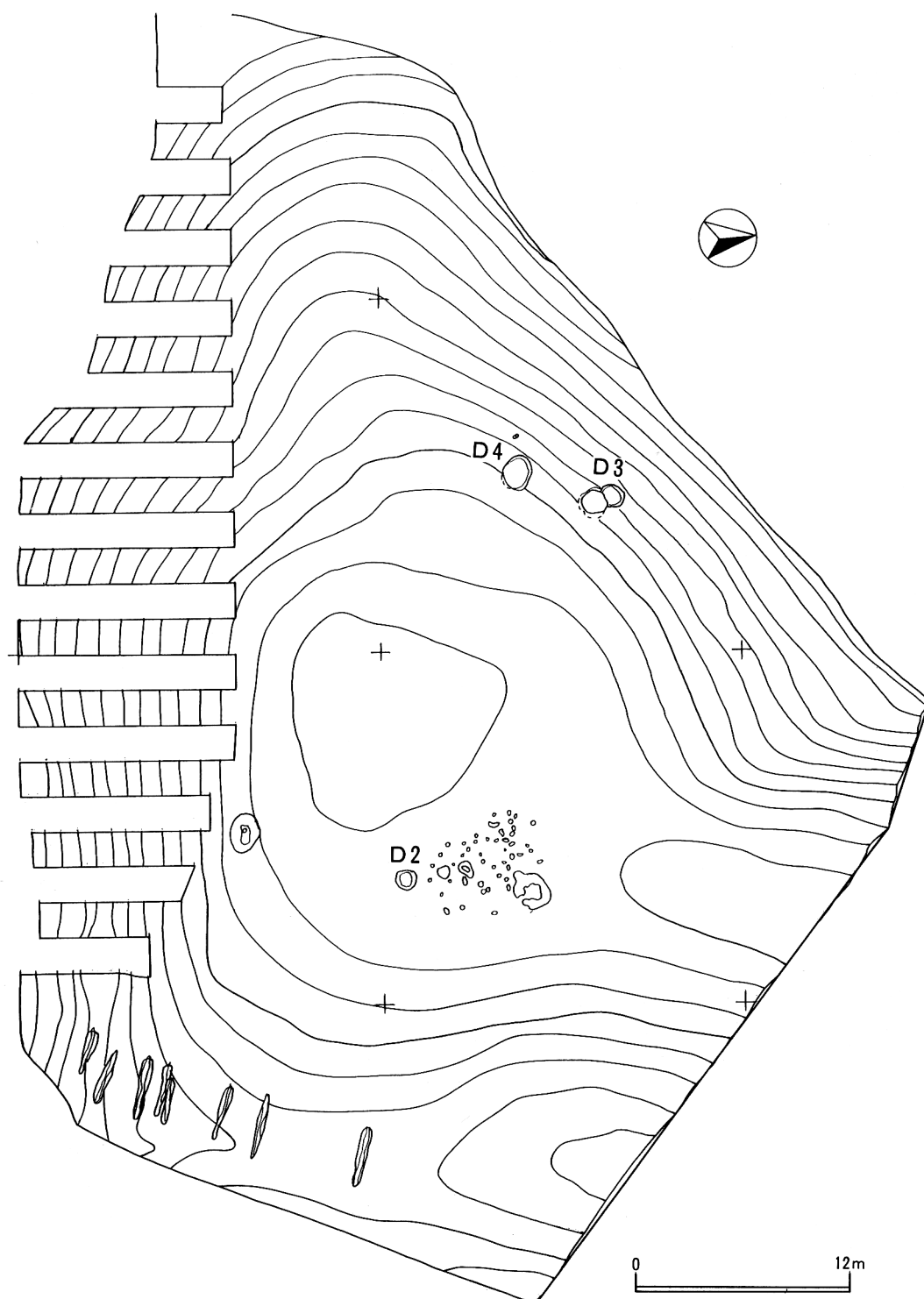
註1 平成4年は、調査区内のトレンチ未発掘調査部分に生えている草木に、発掘時の土が被さっていたりして、遺構に堆積するような落葉、枯れ草が少なかったことに起因する。

参考文献

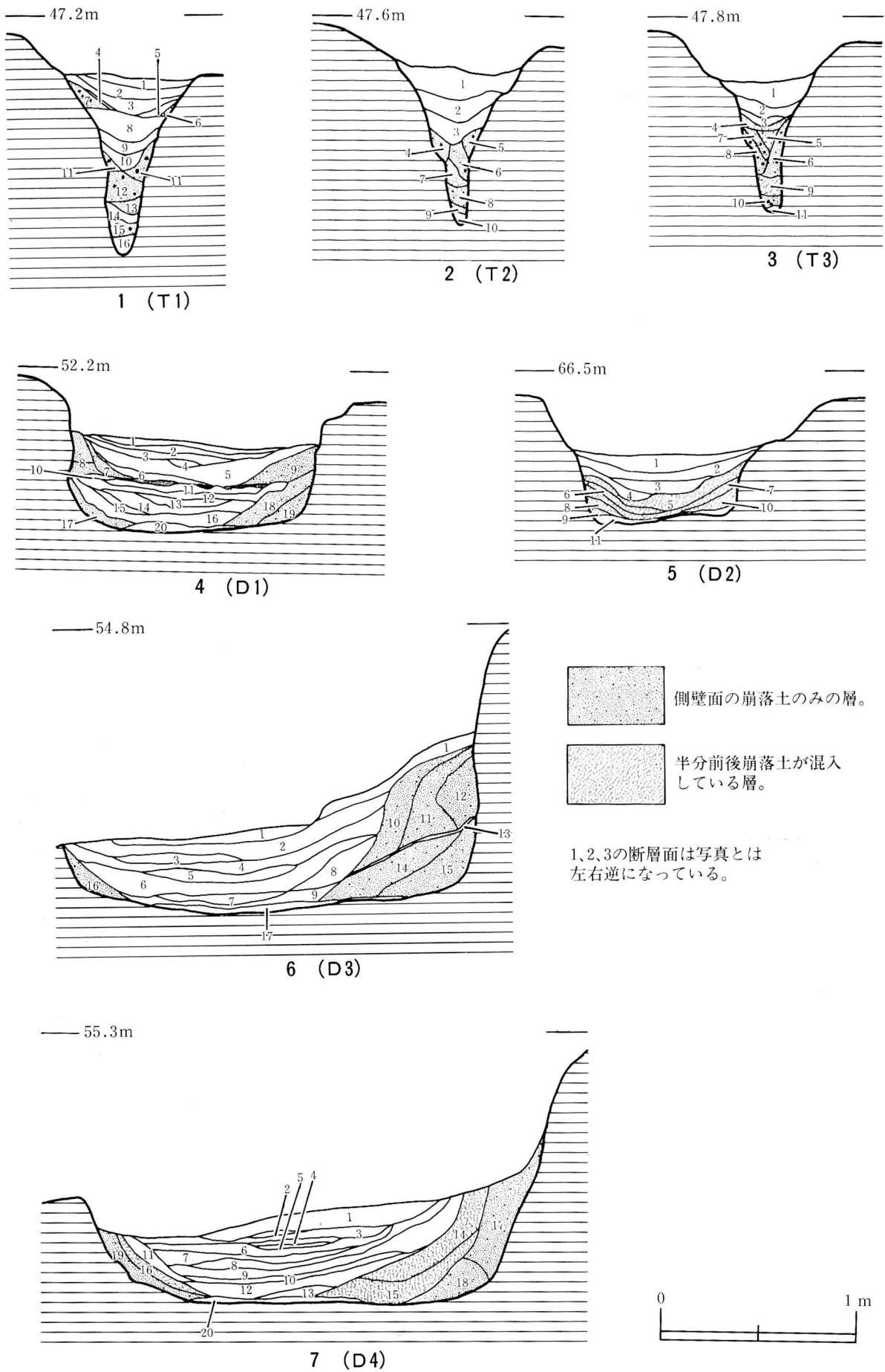
秋田県教育委員会『秋田外環状道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－片野Ⅰ遺跡－』秋田県埋蔵文化財調査報告書第265集 1996(平成8)年



第2図 再調査遺構位置図（報告書B・C区）



第3図 再調査遺構位置図（報告書G区）



第4図 再調査遺構の断面図



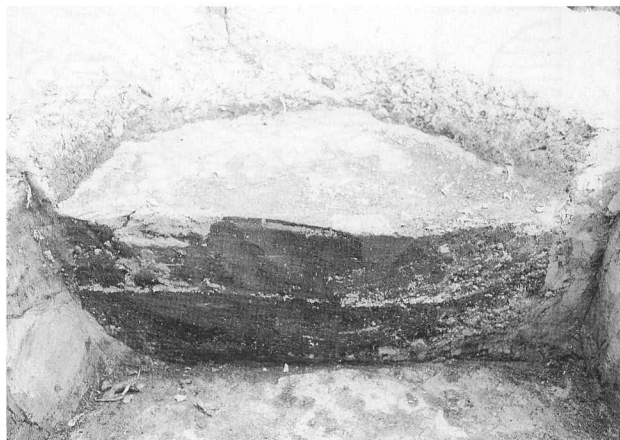
1



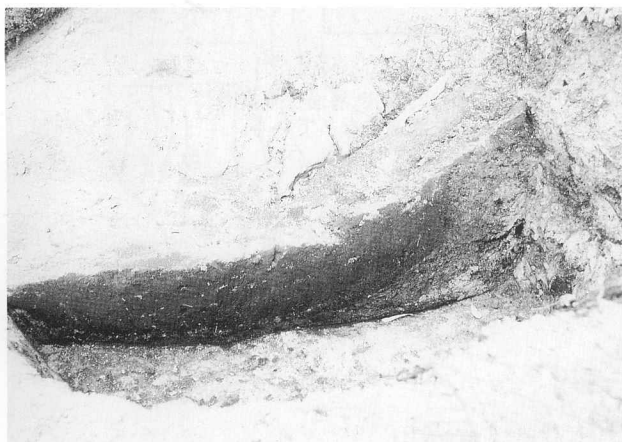
2



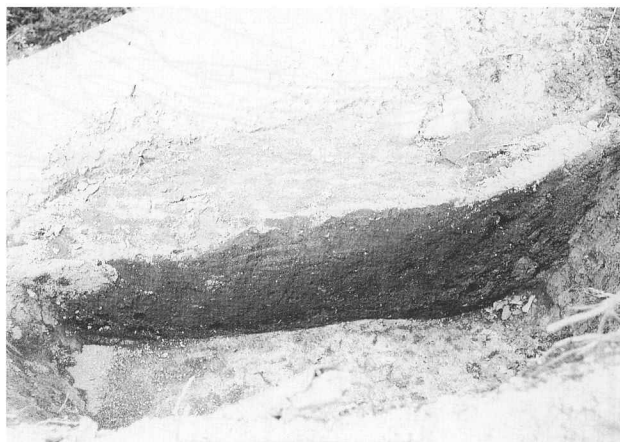
3



4



5



6

写真1 再調査の断面写真